

## 東吉野村立東吉野中学校の耐震診断結果を公表します。

学校施設は、児童・生徒が一日の多くを過ごす学習や生活の場であり、安心・安全な教育環境として重要な意義を持つことから、その安全性の確保は、極めて重要なことです。

また、地域の方々にとっては地震等の災害発生時の応急避難場所となり、地域の防災拠点としても重要な役割を担っています。

このような状況を踏まえ、本村では、建築基準法の新耐震設計基準（昭和56年）以前に建築された東吉野中学校施設の耐震診断を実施し、耐震補強を行いました。

なお、東吉野小学校については、平成17年度に校舎の新築及び体育館の耐震補強工事を行っております。

つきましては、次のとおり東吉野村立東吉野中学校の耐震診断結果を公表します。

耐震診断結果一覧表

学校名	施設名	構造	建築年度	階数	面積(m <sup>2</sup> )	診断年度	I S 値	備考	
東吉野中学校	校舎	川側 4F 棟	R C	S49	4	1,837	H19	0.408	H20 年度 補強済
		2 階教室棟	R C	S49	2	1,003	H19	0.643	
		職員室棟	R C	S49	2	572	H19	0.629	
		体育館側渡り階段棟	R C	S49	4	221	H19	0.464	
		渡り階段棟	R C	S49	5	376	H19	0.643	
	体育館	R C	S49	3	1,700	H19	0.23		
計	6 棟								

R C 造とは、鉄筋コンクリート造のことです。

対象となる建物は非木造で、延べ床面積が 2 0 0 m<sup>2</sup>以上です。

I S 値（構造耐震指標）：第 1 次または第 2 次診断の結果、建物の粘り強さに形状や経年等を考慮して算出される指標で、その最小値を表記しています。

【I S 値の目安】

I S 値 0.3 未満

大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。

I S 値 0.3 以上 0.6 未満

大規模な地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険がある。

I S 値 0.6 以上

大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。

文部科学省は、I S 値 0.7 以上を「耐震性がある建物」として取り扱っています。

大規模な地震とは、震度 6 強から震度 7 程度の地震を想定しています。